

日本労働年鑑 第50集 1980年版  
The Labour Year Book of Japan 1980

第二部 労働運動

XIV 政党

7 日本共産党

1 概況

統一地方選で善戦

六〇年代から七〇年代前半にかけて躍進をつづけてきた共産党は、七五年四月の統一地方選で伸び悩み、七六年総選挙、七七年参院選ではともに議席を半減させるという手痛い敗北を喫した。しかも、この二つの国政選挙で、共産党を追い抜いた公明、民社両党は「中道革新」の名のもとに提携関係を強化し、国政レベル、地方レベルを問わず共産党を排除し、むしろ自民党と結ぶケースがふえた。加えて、社会党が党内対立のため混乱・停滞したこともあって、これまで社共共闘を軸に前進してきた革新自治体は退潮をつづけた。七八年中には京都府、横浜市、沖縄県、七九年の統一地方選では東京都、大阪府という拠点的な革新自治体が保守・中道連合に敗れるという事態があいついだ。しかも横浜、大阪では社会党も保守・中道連合の側につき、共産党は政党レベルでは単独で(革自連の支持はあったが)たたかったのである。

共産党は、こうした困難な状況を、党員、機関紙の量的拡大と同時に、党内教育によつて質的強化をはかることによつて乗り切ろうとしている。その成否は次期総選挙の結果にかかっているとみられるが、その前哨戦ともいべき七九年の統一地方選では、共産党の予想以上の善戦が目立ち、各級議員選でかなりの議席増を果たした。

また一五年間にわたって対立してきたソビエト共産党と、関係正常化についての話し合いがすすみ、あとは公式会談を残すだけとなっている。中越紛争ではベトナムを支持し、中国を「侵略者」としてきびしく非難した。

役員

第一四回大会一中総(七七年一〇月)で選出された役員はつぎのとおり。

▽中央委員会議長 野坂参三、▽幹部会委員長 宮本顕治、▽同委員長代理・書記局長 不破哲三、▽同副委員長 上田耕一郎、瀬長亀次郎、西沢富夫、村上弘、▽幹部会委員 緋田吉郎、市川正一、上田耕一郎、戎谷春松、岡本博之、金子満広、小林栄三、諏訪茂、瀬長亀次郎、高原晋一、西沢富夫、浜武司、不破哲三、宮本顕治、宮本忠人、村上弘(以上常任幹部会委員)、阿部泰、荒堀広、井田誠、茨木良和、上田均、大村進次郎、小笠原貞子、春日正一、河田賢治、木津力松、工藤晃、桑原信夫、下司順吉、小島優、紺野純一、紺野与次郎(死亡)、榊利夫、定免政雄、白石芳朗、立木洋、中島武敏、葦沢忠雄、古堅実吉、星野力、安井真造、若林暹、▽統制委員会責任者 戎谷春松、委員 飯田七三、鈴木善蔵、高島信敏、津村悦夫、吉積清、渡辺武利、▽監査委員会 責任者 春日正一、委員 加藤進、杉本ハマ、中沢清作

七七年二月一五日の幹部会で決定された書記局の機構はつぎのとおりである。

▽書記局長 不破啓三、書記局次長 市川正一、金子満広、宮本忠人、書記局員 緋田吉

日本労働年鑑 第50集 1980年版

発行 1979年11月10日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月25日公開開始

---

■←前のページ 日本労働年鑑 1980年版(第50集)【目次】次のページ→■  
日本労働年鑑【総合案内】

---

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---